

宇佐見耕一「アルゼンチンにおける福祉国家の形成と変容 -- 早熟な福祉国家とネオ・リベラル改革」 (新刊紹介)

著者	宇佐見 耕一
権利	Copyrights 日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	199
ページ	72-72
発行年	2012-04
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://doi.org/10.20561/00045948

宇佐見耕一

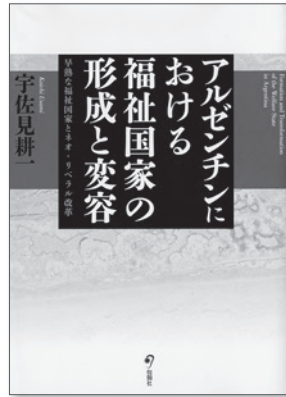
『アルゼンチンにおける福祉国家の形成と変容』 — 早熟な福祉国家とネオ・リベラル改革 —

旬報社

●本書の課題と分析の視点

アルゼンチンにおいて労働者保護のための労働法と社会保障制度の整備が進展したのが第二次世界大戦後に成立したペロン政権であり、それを大きく改革したのが一九八九年に成立したメネム・ペロン党政権であった。この二つのペロン党政権下における労働法・社会保障制度の形成と変容に焦点をあて、アルゼンチンにおける福祉国家の性格、およびその形成と変容に関する諸要因を明らかにすることが本書の課題である。

分析手法として福祉国家の性格に関して、エスピノーアンデルセンの三つの福祉レジーム論を参照した。すなわち、自由主義レジームにおいては平等であるが低水準の国家福祉が供与される。他方、多数の市民は市場において能力に応じた福祉を購入することになる。保守主義レジームの社会保障制度は、職業的地位の格差が福祉の受給と関連している点に特徴があり、ケアサービス等は家族に依存する家族主義的色彩が濃い。社民主義レジームは、高い水準の平等が追求され、普遍主義



的な社会保障制度が導入される。また、ケア等に関しても家族の負担を減らし、女性が労働可能なように国家による社会サービスが拡大される（エスピノーアンデルセン〔二〇〇一〕：二八一―三二二）。

福祉国家レジームをアルゼンチンにおいて形成させ、変容させた要因として、コーポラティズムのあり方、生産レジームのあり方、クライアンティリズムのあり方に注目した。コーポラティズムは、国家が上から中間団体を統制する国家コーポラティズム、民主主義体制下において自律的な組織と国家が協調する社会コーポラティズム、また一九九〇年代以降新自由主義的経済政策により、市場競争が激化した状況下での競争的コーポラティズム（Rhodes [2001]）と二つの下位概念を用いることにした。生産レジームとしては、第二次世界大戦以降国家主導で進められ、そこから利益を受ける労働組合や企業家層がそれを支持した輸入代替工業化レジームと、一九九〇年代の新自由主義的経済政策の下での市場経済レジームという二つの生産レジーム

を考えた。これらの手法は、アルゼンチンの福祉国家の性格とその形成要因の説明に適合的であるばかりでなく、他の福祉国家との比較研究を可能にしてくれる。

●ペロン政権期における福祉国家の形成

アルゼンチンでは、第二次世界大戦前後から社会保障制度や労働法制の整備が進んでいた。ペロン政権期に形成された福祉国家は、労働組合に参加する労働者を対象とした職域と連動した社会保障を中心に、非正規就労者や貧困者等に対しては、エバ・ペロン財団が提供するあまり体系的でない福祉が提供され、それはヨーロッパの保守主義レジームに近いものであった。それを社会保障の受給者が限定されていたことから、限定的保守主義レジームと名付けた。そうした福祉国家を形成させた要因として、国家コーポラティズムと輸入代替工業化レジームを挙げることができると。また、エバ・ペロン財団による社会扶助は、コーポラティズムに統合されない人々をクライアンティリズムによりペロン支持層に編入させる役割を果たした。この形態の福祉国家は、一九八〇年代の「失われた一〇年」まで継続され、その間民主化が進み社会コーポラティズムの試みがなされた。

●一九九〇年代のネオ・リベラル改革と競争的コーポラティズム

「失われた一〇年」の経済危機を経て一九八九年に登場したペロン党のメネム政権は、ネオ・リベラル改革を断行し、それまでの輸入代替工業化レ

ジームを市場経済レジームに転換させた。また、市場経済における激しい競争にさらされた労働者、企業、国家は、それに対応した競争的コーポラティズムを形成した。そのもとで、年金の一部民営化、医療保険の保険者選択制、労働市場規制緩和に対応した失業保険制度導入などの社会保障改革が行われた。それは、限定的保守主義福祉レジームに自由主義的要素を持ち込むものであった。

二〇〇一年末にアルゼンチン経済は再度危機に見舞われ、二〇〇二年の大ブエノスアイレス圏の貧困人口は五〇%を超えるに至った。それは市場経済レジームの下での初めての経済危機であり、それまでの社会保障制度ではその危機に対して十分な対応ができず、社会保障制度は再度調整を迫られることとなった。

（つさみ こういち／アジア経済研究所 ラテンアメリカ研究グループ）

《参考文献》

- ① エスピノーアンデルセン・イエスタ [二〇〇一]（岡沢憲英・宮本太郎監訳）『福祉資本主義三つの世界』ミネルヴァ書房（Esping-Andersen, Gøsta [1990], *The Three Worlds of Welfare Capitalism*, Cambridge: Polity Press）。
- ② Rhodes, Martin [2001] "The Political Economy of Social Pacts: Competitive Corporatism and European Welfare Reform," Paul Pierson ed., *The New Politics of the Welfare State*, Oxford: Oxford University Press.